



ブルージュの鐘の音

みずほ証券
取締役社長

飯田 浩一

金融の世界に入り、出張で海外には頻繁に行くようになったが、やはり今でも鮮明に記憶に残っているのが、37年前、大学一年生の時に初めて欧州を横断した一人旅である。高校時代は山岳部に所属していたので、バックパックで重い荷物を背負うことは何の苦にもならず、エディンバラからロンドンに南下し、ドーバー海峡を渡り、オランダ、ベルギー、西ドイツ、オーストリア、スイス、イタリア、フランスの各地を巡った。初めて見る欧州はとても美しく、自然に触れ、文化を感じながら、2か月弱を過ごした。

ベルギーではブルージュで、代々続く美術商の家に居候させてもらった。ブルージュは、中世ヨーロッパの面影を色濃く残す美しい街。今でこそ観光名所になっているが、当時は人も少なく自然に囲まれた静かな街であった。朝、教会の鐘の音で目を覚まし、日中はホストファミリーと美術館や地ビールの醸造所に行き、ランチやディナーも共にする。日曜になると運河の脇の石畳を歩いて、一緒に礼拝にも行かせてもらった。

初めての海外、しかも一人旅。「地球の歩き方」片手に全てを自分でアレンジしなければいけない状況に置かれ、自由には責任を伴うことを身に染みて感じると共に、何よりも世界の人々との出会いや触れ合い、日常生活の中で心を通い合わせるかけがいのない経験をする事が出来た。予定調和でない偶然の織りなす人や自然との出会いが、

望外の喜びや感動をもたらしてくれる。

足元、新型コロナウイルス感染症対策として、リモートワーク環境が進められている。オンライン動画で



相手の顔を見ながら会話をする。非常に便利であるし、効率も良い。コロナ禍のニューノーマルな世界において、効率だけでなくデジタルを活用した新たなビジネス創造の可能性も大きく広がる。我が社でもポストコロナ、ウィズコロナの中で、テクノロジーも組み合わせたハイブリッド型の新しいチャレンジを重ねている。

一方で、人間はフィジカルな五感をもつ生き物でもある。目で見て、耳で聞き、実際に触る。その時の光や音、匂い、味。リアルに経験するからこそその繋がりがあり、その繋がりが化学反応を起こし新しいものが生まれてくる。これはテレワークやAIでは代替が効かない部分ではないかと思う。繋がりの中で、世界が広がる。このことの大切さ、無限の可能性を、子供たちの世代にも確りと伝えていかねばならないと思っている。